



## 今年度のESDの重点目標（取組）

自分事にしてアクションを起こそう ～人とつながることで意欲が高まる～

### 【令和4年度 ESD 実践報告】

#### 01 ESD 委員会「ゲストティーチャーは地域の方！」



「ジェンダー平等っていうけれど、具体的にどういうことかわからない」、「じゃあ男女平等について詳しい方に話を聞きに行こう」と、地域にお

住いの八千代市男女共同参画センターの方に来ていただき、話を聞きました。ゲストティーチャーとなるその道のプロは、地域にたくさんいらっしゃいます。学校からコンタクトをとることで、地域の方とのつながりができます。身近に住む方の思いを知ることで、自分事として動きたいという思いが強まりました。今後は、知ったことや考えたことを本にして、センターの方に意見をいただく活動をしていきます。



#### 02 美化委員会「イベントを通して全校とつながる」



「雑巾をきちんと使ってもっとぴかぴかにしたい」「箒の使い方を知ってほしい」など、委員会のメンバーの願いや困り感を解決するためには、ど

のような企画を行えばよいか試行錯誤しながら取り組んでいます。タブレットを使って答えるクイズや、整頓上手なクラスを昼の放送で紹介しました。また、雑巾や箒の正しい使い方を知る前に、清掃用具を身近に感じてもらうと、「箒の掃き方選手権」「雑巾リレー大会」を行いました。委員会＝当番活動ではなく、身の回りの困ったことを見付け、それを解決するために自由な発想を出し合い、試行錯誤していきました。そのため、誰が何に困っているのか、どうしたいのかが明確で、自分事として主体的に動くことができました。



#### 03 4年生 総合的な学習「センターの方の困り感を解決したい」



社会科で出会った、清掃センターの方から困ったことを聞き出し、解決に向けて学年で活動しました。ごみの量が多いことを知った子ども

たちは、上手くりサイクルして資源を有効活用できないかと考え、リサイクルボックスを設置しました。解決方法を考える際には、資源の有効活用をするという観点がぶれないように気を付けました。たくさんの人に協力してもらえるようにと用意したお礼の品は、資源をリサイクルして作製しました。毎朝リサイクルボックスを開けて集まっているかを確認する子どもたちの姿からは、資源の問題を自分事として捉え、身近なところから解決しようという意欲が伝わってきました。

